

WORLD CLEANUP DAY JAPAN

2024

活動報告書



**WORLD
CLEANUP
DAY** 2024
20 SEPT



日本と世界各地の活動事例

WORLD CLEANUP DAYとは？

2008年、エストニアで若者9人が不法投棄されたごみであふれた森林をきれいにしようと国じゅうに呼びかけました。「Let's Do It 2008」と命名されたこのクリーンアップ運動には1日で5万人以上(エストニアの人口の約5%弱)のボランティアが参加し、わずか5時間で1万トン以上の不法投棄ゴミの除去に成功しました。

人口の5%が一致団結して課題解決のために行動するという市民運動の力を見つけた、このサクセスストーリーに端を発し、人口の5%の参加を目指すクリーンアップ運動がヨーロッパ各国、そしてアフリカ、アジアへと広まり、2018年から世界各国で同じ日(9月第3土曜日)に地球を一齐にキレイにする「WORLD CLEANUP DAY」として実施されました。第1回の

2018年には157ヶ国で1800万人が参加し、主催団体であるエストニアのLet's Do It Foundationは、2018年ユネスコ/日本ESD(持続可能な開発のための教育)賞を受賞しました。<https://www.mext.go.jp/unesco/004/1409425.htm>

その後、主催団体がLet's Do It World NGOに再編され、毎年「WORLD CLEANUP DAY」が実施されてきました。2023年12月には「WORLD CLEANUP DAY」が国連国際デー(毎年9月20日)として登録され、国連国際デーになって初めて行なわれた2024年のWORLD CLEANUP DAYには191の国と地域で2300万人以上が参加し、2018年以降、延べ211の国と地域で延べ1億1400万人が参加し、推計で70万トン以上のごみが世界中で拾われてきたこととなります。

日本の活動状況

日本でも2018年から、駐日エストニア大使館の支援を受けて「WORLD CLEANUP DAY」を開催しています。そして、2019年からは「海と日本PROJECT」の一環として、日本財団・NPO法人海さくら・WORLD CLEANUP DAY日本事務局の共催で「WORLD CLEANUP DAY」を実施してきました。2022年には、NPO法人WORLD CLEANUP DAY JAPANを設立し、引き続き「海と日本PROJECT」の一環として「WORLD CLEANUP DAY」を運営・実施しています。

WORLD CLEANUP DAY 2024は、国連国際デーとなった2024年9月20日を含め、2024年9月1日から30日までの間、全国各地で清掃活動が実施されました。参加者は過去最高の30,513人に上り、全国900を超える箇所でクリーンアップが実施され、推計で合計22トンのごみを回収しました。

WORLD CLEANUP DAY 2024にご参加・ご協力いただいた団体・企業・個人の皆様、誠にありがとうございました。ご後援・ご協賛いただいた駐日エストニア大使館、日本財団様、各企業・個人の皆様にも感謝申し上げます。改めて、地球をきれいにするという壮大でありつつ身近な課題の解決に向かって、全国各地で一緒に取り組むことの喜びと素晴らしさを感じました。

2024年からは、「WORLD CLEANUP DAY」が国連国際デーの1日(毎年9月20日)となり、以前にもまして、世界とのつながりを実感しています。2024年7月には、大阪でアジア各国からWORLD CLEANUP DAYの主催者たちが集う「リーダーズ・アカデミー・アジア」を開催し、日本のみならずアジアの国や地域との連携を深め、いっそうアジアの中における日本の立ち位置を認識するようになりました。世界各地で実施されるWORLD CLEANUP DAYを1つのきっかけとして、直面しているごみ・環境問題を考え、身近なところから実践し、同じ意識を持つ世界の人々と共に行動することで、大きな力を生み出し、課題の解決につながるものと信じています。WORLD CLEANUP DAY 2025も、国連国際デーとなった9月20日を含め、2025年9月1日から30日までの間、実施する予定です。引き続きご協力のほど、よろしくお願いいたします。

<日本での運営・実施団体>

〒135-0043 東京都江東区塩浜1-6-8-1309

NPO法人WORLD CLEANUP DAY JAPAN 代表理事 浅井孝夫

info@worldcleanupday.jp



運営協力: NPO法人海さくら、日本・エストニア友好協会 後援: 駐日エストニア大使館、国立市
協賛: CMA CGM JAPAN株式会社、株式会社グローバルプロデュース

2024年 日本 の集計結果

2024年9月20日(金)

【2024年9月1日～30日の実施含む】



【推移】

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
参加人数	811人	4,333人	3,916人	5,949人	8,384人	16,745人	30,513人
ごみ回収量	406袋	2,700袋	5,520袋	4,270袋	5,679袋	5,200袋	9,791袋



東京都港区の街をクリーンアップ



ITOCHU SDGs STUDIOからライブ配信

World Cleanup Day 2024

ありがとうございました!

参加者
2,300万人

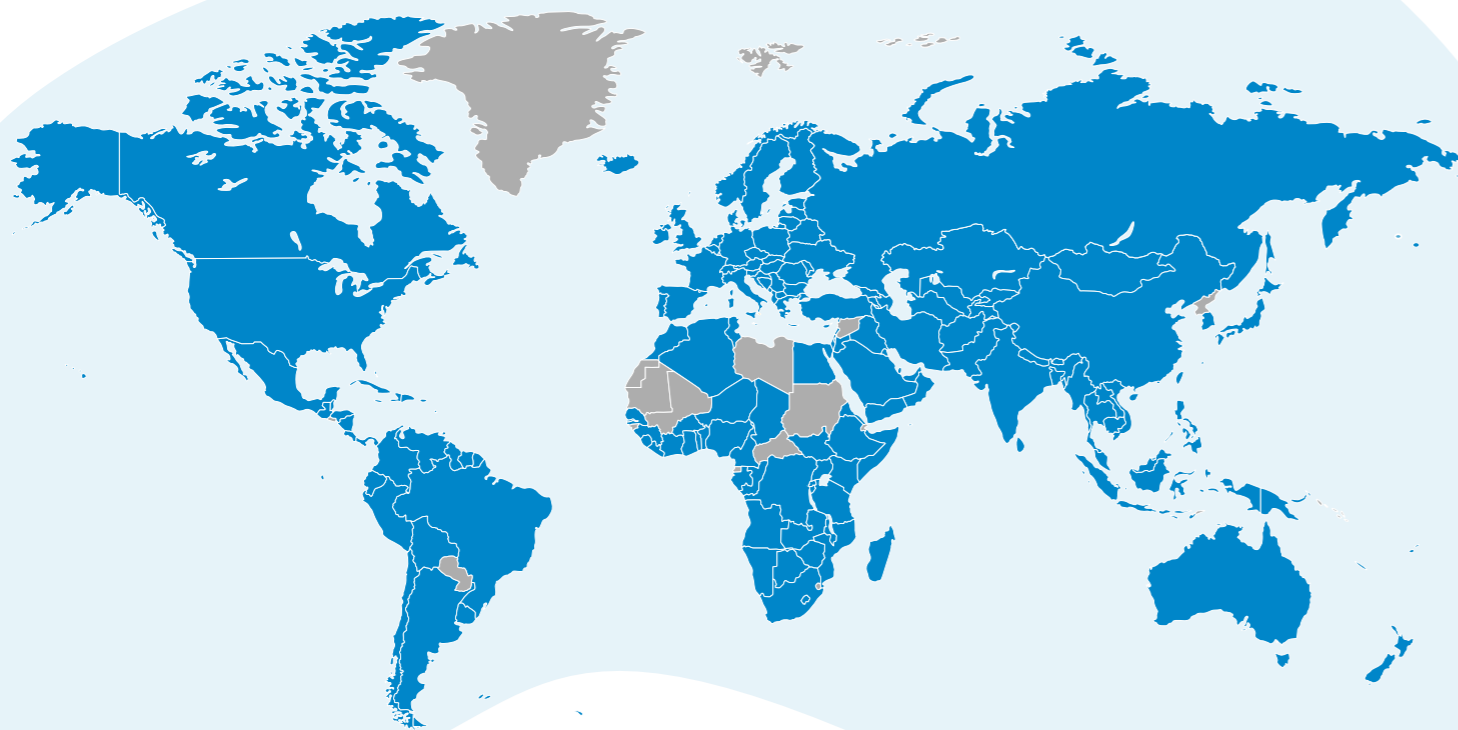
191
の
国と地域

国連加盟国の
87%

16万5千
トン
のごみを回収



● WCD2024 参加国



結果概要

今年のWorld Cleanup Day 2024は、大きな成功を収めました。

数々の記録を更新し、

その成果を支えた重要なトレンドが注目されました。

前年の2023年、Let's Do It Worldは、World Cleanup Dayでの動員活動の功績を受けて国連のSDGs賞を受賞しました。

また、このイベントが公式な国連カレンダーの「国際デーおよび国際週間」に登録され、9月20日が正式な開催日として

制定されたことは光栄なことです。

どの国々では、過去最高の参加者数をほぼ倍増させる成果を達成しました。

特に注目すべき成功のひとつが、ウクライナチームの記録的な参加です。Let's Do It ウクライナの主導のもと、今年はこれまでのどの年よりも多くのウクライナ国民が参加しました。戦時下にもかかわらず、40万人以上が国内各地で行動を起こし、世界に向けて「私たちにできるのだから、誰にでもできる!」という力強いメッセージを発信しました。また、エストニアでも新記録が達成され、6万3,000人が参加。これは、2008年に開催された世界初のLet's Do Itクリーンアップ・デーの参加者数を上回る成果となりました。

しかし、国別の動員率（国民の何%が参加したか）は、World Cleanup Dayの成功を測る重要な指標です。私たちは世界人口の5%の参加を目指しているため、各国の個別の動員率を理解することは非常に重要です。今年、この指標でトップに立ったのはキルギスで、人口の12%が参加しました。続いて、カンボジア7.2%、クック諸島6.6%、毎年5%の壁を超え続けているラトビアは7.7%という高い動員率を達成しました。

データを詳しく分析すると、持続可能な社会変革への呼びかけが、一般市民だけでなく政策立案者にも広く受け入れられていることがわかります。

World Cleanup Dayは、191の国と地域から2,300万人以上が参加し、史上最高の動員数と参加率を記録しました。今年は特に各国の参加レベルが大幅に向上し、40か国が過去の記録を更新しました。メキシコ、日本、キルギス、ドイツ、ブラジルな

私たちは、よりクリーンかつ健全で、ごみのない地球を目指すアドボケーターとして、大きな影響を与えています。では、World Cleanup Day 2024を成功に導いた注目すべきトレンドを振り返りながら、その成果を称えてみましょう!



World Cleanup Day パハマ

若い力

世界中の若者の参加意欲は非常に高く、多くの学校や若者たちによるWorld Cleanup Dayへの積極的な参加が増加していることを実感しています。World Cleanup Day 2024での最も顕著なトレンドは、モザンビークから生まれました。同国では、教育省とのパートナーシップにより、数百の学校がクリーンアップ活動に参加しました。同様に、エストニアでは6万3,000人以上が参加し、国内の学校の91%がWCDに参加するという驚異的な成果を達成しました。



キューバ

行政の取り組み



カンボジア

もう一つの重要なトレンドとして、World Cleanup Dayへの各国政府の関与が拡大していることが挙げられます。地方の首長から国連の代表、各国の大統領に至るまで、政府関係者が私たちの活動により深く関与し、私たちが発信するメッセージへの理解を深めていることは明らかです。

この各国政府の関与の拡大は、地域レベルでの進展にとどまらず、政策決定の場においても影響力を持ち始めています。政策立案者の関与が不可欠であることはますます明らかになっており、多くの国のネットワークリーダーが、廃棄物管理の危機が深刻化する中で、法的拘束力のある政策の導入を政府に求めています。

民間セクターの認知度の向上

若者や政府の意識向上に加えて、今年は企業の可視性と関与も顕著に増加しました。特にLinkedInを中心としたソーシャルメディアでは、多くの企業や団体が主催したクリーンアップ活動を称える投稿があふれていました。

この企業セクターの関与は、より広くムーブメントを起こすための重要な要素となっており、社会全体が廃棄物管理の世界的な危機に取り組む必要性を認め、コミットメントを強めていることを示しています。



ケニア

Let's Do It Worldファミリーに新しい国々を歓迎



オランダ

私たちのムーブメントは、規模、エネルギー、影響力の面で拡大し続けています。World Cleanup Day 2024には、エリトリア、クック諸島、タジキスタン、オランダ諸島の4つの国と地域が初めて参加し、新たな節目を迎えました。

これらの国と地域は、本土の河川から海へと流れ込み、最終的に自国の海岸に漂着する大量のごみ対策に取り組んでいます。

彼らの参加は、この取り組みのグローバルな広がりとその重要性が新たな段階へと進んでいることを示しています。

世界的な影響力は着実に拡大しています。2018年にWorld Cleanup Dayを開始して以来、私たちは大きな進展を遂げました。

2018年から2024年までの7回のWorld Cleanup Dayを通じて、国連加盟国の95%を含む世界211の国と地域で、ボランティアのネットワークが合計70万8,289トンの不法に投棄されたごみを回収しました。

これまでに、世界で延べ1億1,400万人以上が参加し、地球人口の1.43%に達する大規模な動員を実現しました。

ごみ - 地球の重荷を軽くする

World Cleanup Day 2024で報告されたごみの総回収量は、世界全体で164,585トンに達しました。この数字の多くは、各国のリーダーが提出した報告書から直接得られたものであることが重要なポイントです。

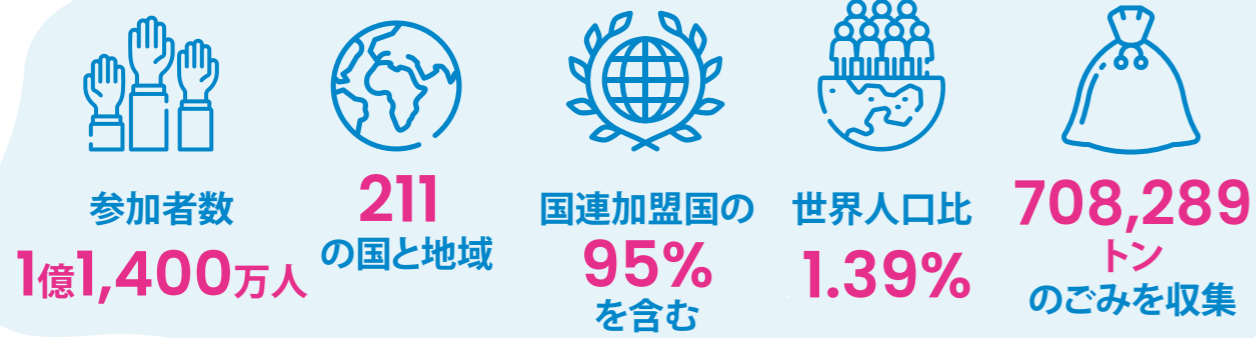
また、World Cleanup Dayの開催場所を追跡した結果、全世界で正式に115,926件のイベントが登録されました。しかし、正式な登録がなくても、多くの価値あるクリーンアップ活動が実施されたことも忘れてはなりません！



ケニア

7年に亘る7回のクリーンアップキャンペーンのインパクト

World Cleanup Days 2018-2024



	参加者	国と地域	国連加盟国比率
2018	1,800万人	157	76%
2019	2,120万人	180	83%
2020	890万人	166	77%
2021	860万人	191	85%
2022	1,480万人	190	86%
2023	1,910万人	198	90%
2024	2,300万人	191	87%

5%達成国(2018-2024)



2018年以降、8か国が「持続可能な変化を生み出すための臨界点」とされる人口の5%参加という目標を達成しました。クック諸島は今年初めてこの基準を超え、6.6%を記録しました。ラトビアは、過去7回のWorld Cleanup Dayのうち5回で5%を超え、特に直近4回は連続で達成しており、依然としてトップに立っています。また、特筆すべきはキルギスで、今年は史上最多となる12.4%の動員率を記録しました。

World Cleanup Day 感動ストーリー

ギニア



2024年9月20日に開催されたWORLD CLEANUP DAYは、ごみ問題に取り組む重要なグローバル・アクションであり、Let's Do It ギニアも目覚ましい貢献を果たしました。

ギニアでの主なクリーンアップイベントは、9月22日にラトマのタコンコビーチで開催されました。このイベントは、カントリリーダーであるムーサ・モイズ・シラが、JCIコナクリリーダーズ、地元のNGO、そしてトラオレ市長と市政府の支援を受けて実施されました。

20の地元のユースグループを動員し、ギニアの若者のエネルギーと情熱を活かしたこのイベントは、成功の原動力となりました。参加者はごみを回収するだけでなく、地元の企業と連携して、回収した資源がリサイクルまたは再利用されるよう取り組みました。

このクリーンアップは、使い捨てプラスチックの製造、輸入、販売、使用を禁止する国内法の発表と同時に行われ、ギニアはプラスチック汚染との戦いの最前線に躍り出ました。このイニシアチブはまた、年末まで2週間ごとにクリーンアップイベントを開催すること、そして環境保護に特化したコミュニティ団体の設立を後押ししました。

Let's Do It ギニアの活動は、ギニア国営放送を通じて広く報道され、国内でのさらなる参加を促しました。このムーブメントのアクションへの呼びかけは、他の都市の首長たち、そしてギニア共和国のママディ・ドゥンブヤ大統領にまで届き、全国的な具体的な行動の必要性を訴えました。

ムーサ・モイズ・シラは、かつてプラスチックごみで覆われていたタコンコビーチが見事に生まれ変わった様子を振り返りました。クリーンアップとして始まったものが、コミュニティのエンゲージメントを祝う祭典へと発展したのです。子供たちの笑い声と、環境保護に関する熱心な議論が響き渡りました。この共同の取り組みは、ビーチをよみがえらせただけでなく、地域住民の間にサステナビリティへの意識を根付かせました。

この動員に応え、コミュニティはタコンコの環境保全に焦点を当てた地域団体を設立し、意識啓発のための学校教育プログラムを展開し、砂丘の再植林プロジェクトを開始しました。タコンコビーチは今や、持続可能な活動のための活気ある拠点となり、コミュニティが共通の目標に向かって団結することで何が達成できるのかを示す模範となっています。

WORLD CLEANUP DAYは、連携したアクションが重要かつ持続的な変化をもたらすことを示し、より深い環境意識を育み、地域社会と地球全体のより健全な未来を確かなものとすることを示しています。



エストニア

2024年に開催されたWORLD CLEANUP DAYは、エストニアで7回目となり、これまでで最も成功した回となりました。エストニアを起源とするWORLD CLEANUP DAYは、2008年に行われた最初の全国的な「Let's do it!」エストニアのクリーンアップから発展しました。

自然から回収されました。

この問題についての啓発活動の結果、電子たばこに関する法律を改正し、変化する市場状況に法律を対応させるため、気候省および関連機関との連携のもとで議論が開始されました。

WORLD CLEANUP DAY 2024での取り組みは、エストニア人が差し迫った環境問題に取り組む決意と、共通の目的のために集まるコミュニティの集約的な力を示しています。2008年に始まったこのグローバルな活動を引き続き主導することで、エストニアは環境責任の価値観を体現し、よりクリーンな地球のために行動を起こすよう他国にインスピレーションを与えています。

この取り組みは、環境管理への強いコミットメントを反映し、現在もエストニアに深く根付いています。

今年は、あらゆる年齢、国籍、世界観を持つ人々がエストニア各地のさまざまな場所の清掃のために一堂に会し、大きなグループ、教室、チーム、そして家族として参加しました。参加者の90%以上が幼稚園や普通教育学校の生徒でした。

今年は、合計62,991人の参加者が登録し、416の教育機関と49の企業が参加、516のクリーンアップイベントが行われました。さらに、住民のための48の公共クリーンアップと、ダイバーによる2つの水中クリーンアップも実施されました。

毎年、エストニアのWORLD CLEANUP DAYは、小さなごみやプラスチックごみ、不燃ごみ、タバコの吸い殻、墓地のろうそく、造花、そしてバルト海と内陸水域の汚染など、さまざまなテーマに大きな注目を集めています。2024年は、使い捨て電子タバコがもたらす環境被害に焦点が当てられました。主な懸念は、電子タバコが一般ごみや自然の中に捨てられることと、これらの製品の高度に汚染し資源を大量に消費する生産・廃棄物管理プロセスでした。

9月には、電子タバコに関連する問題に対処するため、様々なメディアチャネルやソーシャルメディアプラットフォームで包括的な啓発キャンペーンが開始されました。このキャンペーンでは、電子タバコの適切な処分方法が紹介され、これらの製品をリサイクルするためのネットワークが確立されました。クリーンアップ活動中に、合計1,192本の電子タバコが





ブルガリアでは、2024年のWORLD CLEANUP DAYが、bTVメディアグループが主導する重要かつ影響力のある取り組みにより特徴づけられました。

この民間テレビネットワークは12年連続で「Let's Clean Bulgaria Together」（共にブルガリアをきれいにしよう）キャンペーンの先頭に立ち、環境活動を推進するメディアの可能性を示しました。

今年のイベントは目覚ましい参加を記録し、28万2,000人以上の個人が国中の6,800以上の環境汚染されたエリアを清掃するために集結しました。このクリーンアップ活動により、なんと4,300トンのごみが回収され、ブルガリア国民の環境管理への深いコミットメントが反映されました。

若い世代の熱意は特に顕著で、約700の教育機関がキャンペーンに参加し、昨年と比較して100の増加という注目すべき結果となりました。学生、教師、そして家族が力を合わせてコミュニティに具体的な変化をもたらし、教育と意識がいかに効果的に集団行動を動員できるかを示しました。

この取り組みを特別なものに行っているのは、bTVが単にごみ問題の報道を超えて、よりきれいな未来の構築に積極的に関わっていることです。「共にブルガリアをきれいにしよう」キャンペーンは、環境責任とコミュニティの結束を促進することで肯定的な影響を生み出すことを目指すbTVのソーシャルブランド「The Good Example」（良い例）の一部です。今年のテーマ「ゲームチェンジ！」は、水域の汚染対策に焦点を当て、北極汚染と海洋ごみに焦点を当てたグローバルなWORLD CLEANUP DAYの方向性に沿ったものでした。河川、湖、沿岸地域の汚染に焦点を当てることで、bTVは重

要な水資源に対する人間の活動の深刻な結果に注目を集めています。

このクリーンアップ活動は、汚染された水域によって悪化しているブルガリアでの鉄砲水の発生増加の観点から特に重要です。これらの地域を清掃することは、単にごみを収集するだけでなく、将来の環境災害を防ぎ、コミュニティの安全と健康を守るために不可欠なのです。

この取り組みの一環として、bTVはメディアのリーダーシップが他のセクターに有意義な行動を促すことができることを示しました。地域コミュニティ、教育機関、メディア組織間のコラボレーションは、変化をもたらす集団的な可能性を強調しています。今年のWORLD CLEANUP DAYの成功は、草の根的な関与がいかに重要な環境の進歩をもたらすかを証明しています。

結論として、bTVメディアグループが主導する取り組みは、ごみ問題との闘いにおける協力的な努力の重要性を強調しています。彼らの影響力のあるアプローチは、メディアがいかにコミュニティを団結させ、よりクリーンで健全な地球を育むことができるかのロールモデルとなっています。



ブルガリア

ガーナ

プラスチックごみは、ガーナにおいて人々の健康、環境、そして海洋生物に悪影響を与える重要な環境課題となっています。ガーナでは年間約84万トンのプラスチックごみが発生していると推定されています。

この量のうち、わずか9.5%しかリサイクルされておらず、残りは無分別に廃棄され、プラスチックが雨水排水溝、河川、小川を詰まらせ、最終的に海洋に流れ込んでいます。

この問題に対処するため、ガーナはLet's Do It ガーナと提携して、2018年からWORLD CLEANUP DAYに参加しています。この世界的に認知されている日は、プラスチックごみとその環境への影響について意識を高め、何千人ものボランティアを全国のコミュニティやビーチクリーンアップに動員し、プラスチックごみを回収しています。

2024年、ガーナは9月20日と21日に、グレーターアクラ、西部、中央部、東部、アシャンティ、そしてボノ・イースト地域の6つの地域でWORLD CLEANUP DAYを祝いました。

8,561人以上のボランティアが参加し、74トンのごみを回収しました。クリーンアップ活動は学校、コミュニティ、そしてビーチなどで行われました。

参加を促すため、スポーツがイベントに組み込まれ、個人、企業組織、そしてスポーツ愛好家が、ビーチを清掃しながら、新しく清掃された海岸でスポーツフェスティバルを楽しむことができました。Let's Do It ガーナチームは、ガーナラグビーリーグ連盟とビーチサッカーガーナとの協力により、この取り組みを成功させました。

ガーナでのWORLD CLEANUP DAYを主催するLet's Do It ガーナは、クリーンアップのためのボランティアを動員するだけでなく、学校やコミュニティでプラスチックごみについての意識を高め、前向きな行動変化を促進しています。チームはブランド監査を実施し、使い捨てプラスチックに代わる再利用可能な代替品を提唱しています。

プラスチックごみを削減するLet's Do It ガーナの取り組みは、同組織が2023年ガーナ環境・衛生賞から「インパクトのあるクリーンアップ動員組織賞」を受賞したことで認められました。Let's Do It ガーナは、2024年のWORLD CLEANUP DAYを成功させるためのパートナーとボランティアの素晴らしい支援と参加に心から感謝しています。



ラトビア

ラトビアは北ヨーロッパに位置する人口200万人の国で、バルト海に面しています。2024年のWORLD CLEANUP DAYでは、バルト海の保全を重視し、「幸せの木」植林活動、クリーンアップ活動、そしてエコロジーと持続可能性に関する討論会を開催しました。地元住民に加え、企業、外国人とラトビアの外交官、そして国内外の在外ラトビア人も参加しました。

バルト海は世界で最も汚染された海の一つであり、その原因の一部は第二次世界大戦からの長期的な汚染の影響によるものです。写真はWORLD CLEANUP DAYのクリーンアップイベントの一部を示しており、最後に海の「健康」を祈る儀式で締めくくられました。また、内陸水域の水質や水をきれいに保つために社会で必要な行動変化についてのメディア討論も行われました。

最初のWORLD CLEANUP DAY以来、ラトビアでは独自の「幸せの木」キャンペーンを展開し、人々に種まきしたり木を植えたりするよう呼びかけてきました。このイニシアチブを通じて、ラトビアはごみを取り除かれた後の土壌にどのような変化が起こるかを示すことを目指しています。このキャンペーンは範囲を拡大し、2024年にはクラスラヴァ市に7番目の「幸せの木パーク」をオープンしました。自治体と住民は公園の創設と管理に対する責任を共有しています。

ラトビアの学校のネットワークもこのキャンペーンに参加しており、生徒たちは学校で自分たちの幸せの木を植えたり、植物やエコシステムを育てたりすることに焦点を当てたプロジェクトを行っています。

今年のWORLD CLEANUP DAYはワールド・ウェルネス・ウィークと提携し、ラトビアチームはラトビア独自のウェルネスである「ラトビアの歌と踊りの祭典運動」と協力協定を締結しました。合唱団、ダンスグループ、民俗グループ、アマチュア劇団、オーケストラがWORLD CLEANUP DAYキャンペーンに参加するよう招待され、歌唱を特徴とする非公式なコミュニティイベントを創出しました。これらのイベントは団結の精神、自然への感謝、そして健康的な生活の促進を目的としています。

ラトビアでのWORLD CLEANUP DAYは、「Lielā Talka」（英語で「The Big Cleanup」、日本語では「大清掃」の意）と呼ばれる国内最大のボランティア運動によって組織されています。2008年以来、この運動は世界中のラトビア在外コミュニティを含め、クリーンアップ活動のために50万人以上の参加者を集めています。2024年の活動では、参加者総数が14万人に達し、国全体で30万枚の無料ゴミ袋が配布され、1,500カ所でクリーンアップ活動が実施されました。



ルーマニアは2010年からWORLD CLEANUP DAYに参加しており、よりクリーンで責任ある持続可能な地球に貢献することを誇りに思っています。

Let's Do It ルーマニアは、変化を起こす力があり、かつて環境問題が軽視されていた国でこのようなムーブメントを発展させることができるという強い信念を持ってこの取り組みを始めました。

2010年以来、260万人以上のボランティアがルーマニアでの活動に参加し、Let's Do It ルーマニアを国内最大の社会的ムーブメントに変えました。2024年には、ルーマニア全国41県から25万人以上のボランティアが集まり、23万袋のごみを収集し、合計2,400トンになりました。2024年のルーマニアにおける重要な成果は、議会と大統領によってナショナルクリーンアップデー法（法律第266/2024号）が採択されたことでした。

この瞬間は、よりクリーンで健全な環境を目指す国にとって重要な一歩となりました。この法律の目的には以下が含まれています：

- ・ ナショナルクリーンアップに積極的に参加するようコミュニティを動員すること
- ・ 学校での環境教育を促進すること
- ・ ごみの分別収集を奨励し、不法投棄を制限することで環境汚染と闘うこと
- ・ 当局とNGO間のパートナーシップを育成すること



ルーマニアのナショナルクリーンアップデーは毎年9月の第3土曜日に祝われます！これはコミュニティ、当局、NGOが力を合わせて、よりクリーンな環境に近づくための活動を組織する絶好の機会となります。チームはまた、ルーマニア国内のごみがある地域をマークするためのLet's Do It ルーマニアアプリを開発し、当局とボランティアが行動を起こせるようにしました。

一つひとつの小さな行動が大切であり、共に力を合わせることで私たちのコミュニティをよりクリーンで緑豊かな場所に変えることができます！来年、ルーマニアは初めてのクリーンアップ活動から15周年を迎え、クリーンで持続可能なルーマニアの実現に向けて共に行動することの重要性を推進する大規模なキャンペーンを計画しています。より持続可能な未来に向けて、一緒に一歩踏み出しましょう。Let's do it!

ルーマニア

ミャンマー

今年、Let's Do It ミャンマーは、国連ハビタット・ミャンマーが主催する2024年6月24日から29日までのミャンマー気候行動週間(MCAW)の間に、WORLD CLEANUP DAY 2024キャンペーンを開始しました。

ミャンマーでのWORLD CLEANUP DAY 2024は、過去6年間のWCDの活動を基盤とした注目すべき集団的取り組みを示しました。様々な課題にもかかわらず、Let's Do It ミャンマーは1,000人以上のボランティアと17のパートナー組織と共にWORLD CLEANUP DAYを祝い、ミャンマーのごみ問題に取り組みました。この影響力のあるイニシアチブは、10,000キログラム以上のごみを回収することに成功し、環境問題と気候変動についての意識を高めました。これは、コミュニティが国連ハビタット・ミャンマーとともに、よりクリーンな環境への献身を示すものでした。

2024年のWORLD CLEANUP DAYイベントはミャンマーでのWORLD CLEANUP DAYの7周年を記念し、GLOCAL CCC組織との協力により、この節目を祝う歌を発表しました。2024年、Let's Do Itミャンマーは国連ハビタット・ミャンマー、YOMAストラテジック・ホールディングス、JCIミャンマー、CMA CGMミャンマー、そしてCEVAロジスティクスとのパートナーシップの成功に取り組みました。これらの団体の積極的な参加と協力がイベントの成功に不可欠でした。

国内の様々な課題の中での実地のクリーンアップ活動やデジタルキャンペーンに加えて、Let's Do It ミャンマーは国境を越えた環境イベントに参加することで活動範囲を拡大しました。2024年のアースデイでは、Let's Do It ミャンマーチームがLet's Do It マレーシアとマレーシア人道支援財団(MHF)と協力し、ペナンタウンホールで初の「持続可能なアップサイ

クルファッションショー」を開催しました。また、国のリーダーであるジン氏とLet's Do It ミャンマーチームは、ペナンでのアースデイイベントの4日目に、手作りのソーダタブ(ドリンクのプルタブ) プレスレットのリサイクルワークショップも主催し、その後リサイクル材料と製品を展示しました。これらの活動は創造性を通じて持続可能な生活を促進し、実践的で魅力的な方法で5Rs(リデュース、リユース、リサイクル、リフューズ、リペア)に関する意識を高めました。

全体として、このイニシアチブは環境の持続可能性を育む上での集団行動の重要性を強調しました。また、環境課題に対する長期的な解決策を開発する上でのパートナーシップ、創造性、そして教育の役割も強調しました。大規模なクリーンアップと革新的なワークショップや芸術的表現を組み合わせることで、Let's Do It ミャンマーチームは即時のごみ問題に対処するだけでなく、より広範な持続可能性へのコミットメントを促しました。このイベントは有意義な環境変化を推進する上でのグローバルな協力の力を強調し、地域社会と国際的な参加者の両方に持続的な影響を残しました。



団結と希望を祝う

パナマは今年、7回目のWORLD CLEANUP DAYを素晴らしい成功を収めて祝いました。

5つの州の80以上のコミュニティから1万5,000人以上のボランティアが集まり、街路、公園、河川、そしてビーチの清掃に協力し、推定150トンのごみを除去しました。カレン・ゴンザレスという模範的な地域コーディネーターが率いるベラグアス州が主導し、サンティアゴ市と周辺地区で7,000人の参加者が集結し、記憶に残る最も感動的な環境活動の一つとなりました。

しかし、2024年の最大のハイライトはクリーンアップだけではなく、WORLD CLEANUP DAYに先立ってサンティアゴで開催されたエコロジカルパレードでした。2年連続で、サンティアゴの街は色彩と創造性、そして強い目的意識で活気づきました。家族、学生、そして学校や地元組織の代表団が「より清潔なパナマのために共に」や「私たちの地球、私たちの責任」といったメッセージを掲げた旗を誇らしげに掲げて行進しました。

木や動物に扮した子供たちが注目を集め、地元の学生たちが作ったリサイクル素材で作られた見事なエコアート作品が観客から歓声を浴びました。このパレードは単なる祝いではなく、コミュニティが環境を守るために団結するとき何が可能かを思い出させるものでした。

ある参加者が次のように最も確に表現しています：「子どもからおじいちゃんおばあちゃんまで、こんなにたくさんの人々が同じ目標に向かって活動しているのを見ると、本当に私たちはより良い未来を作り出せると信じられるようになります」

Let's Do It パナマについて

Let's Do It パナマはLet's Do It Worldの誇り高いメンバーであり、2017年以来、グローバルな活動をパナマで代表しています。過去7年間で、フランシスコ・ピザロ(創設者であり現在の国内リーダー)が率いる組織は15万人以上の人々を動員し、WORLD CLEANUP DAYのイニシアチブを通じて推定750トンのごみを回収しました。この揺るぎないコミットメントは、よりクリーンで健全で持続可能なコミュニティを作るというパナマの決意を反映しています。



パナマ

中国

中国では、WORLD CLEANUP DAY 2024の一環として、「#MakeRoomForLife (生命のための場所を作る)」というテーマのもと、プラスチック汚染の環境への影響に焦点を当てた心を動かす活動を開始しました。

意識を高めるために、私たちは伝統的な中国芸術からインスピレーションを得た、美しくデザインされた一連のポスターを制作しました。

これらのポスターは、山、川、花、鳥、魚、昆虫、人々などの要素を強調しながら、四季のテーマ、岩絵、プラスチックコラージュを取り入れていました。上海の10の主要な地下鉄駅に展示されたこれらの芸術作品は、一般市民の注目を集め、プラスチック汚染問題への取り組みの緊急性を強く思い起こさせるものとなりました。

視覚芸術の取り組みに加えて、私たちは人気の中国SNSプラットフォーム「小紅書 (シャオホンシュ)」で「左手にゴミ、右手に詩」と題したクリエイティブなキャンペーンを開始しました。このイニシアチブは詩のプロガーたちに環境意識というテーマについて考察するよう促しました。

反響は目覚ましく、40人以上の詩人から96の作品が寄せられました。私たちは46の詩を選び、上海のWORLD CLEANUP DAYイベントで展示しました。これらの作品の一部はカレンダーや冷蔵庫用マグネットに形を変え、パートナーや一般市民の両方から熱心な反響を得ました。

2024年9月21日、北京のエストニア大使館はピーチクリーンアップイベントを開催し、WORLD CLEANUP DAYへの私たちの取り組みを示しました。他のEU諸国の大使も招待し、30人以上が参加して河岸から150キログラム以上のごみを協力して取り除きました。大使館はこのイベントを毎年 の伝統とし、WORLD CLEANUP DAYへの取り組みを深め、環境協力を強化する計画です。

これらの取り組みを通じて、私たちは環境問題に取り組む上でのコミュニティの参加と創造的表現の力を示しました。芸術、詩、および直接的な行動を組み合わせることで、私たちのイニシアチブは廃棄物管理に対処するだけでなく、より大きな環境意識に向けた文化的シフトチェンジも促進しています。共に、私たちは将来の世代のために地球を守るという集団的な責任を意識し合い、変化への統一された願望と、よりクリーンで持続可能な世界への取り組みを示しています。全体として、私たちは250,679人の参加者という大規模な動員を達成しました。



WORLD CLEANUP DAY Leaders Academy Asia 2024 in 大阪



2024年7月18日から21日にかけて、アジア各地からWORLD CLEANUP DAYを主催・運営するLet's Do It World (LDIW) のリーダーたちが大阪に集まり、WORLD CLEANUP DAY Leaders Academy Asia 2024 (リーダーズアカデミー) を開催しました。15 国から集まった情熱的なリーダーたちは、それぞれの知識を共有し、議論する中で解決策を見出し、各地域の連携、協調、成長を目的とした活気溢れる効果的な4日間を過ごしました。

リーダーズアカデミーは、NPO法人WORLD CLEANUP DAY JAPANが主催し、インドネシア、台湾、シンガポールのリーダーたちが支援して実施されました。目的は、アジア地域の各チーム間の緊密な協力関係を促進し、地域の課題を理解し、ベストプラクティスを共有すること、そして日本チームから先進的な廃棄物管理戦略を学ぶというものでした。

表敬訪問

リーダーズアカデミーの開催に先立って、当法人代表理事・浅井孝夫と副代表理事・荒井秀子(日本・エストニア友好協会事務局長)は、エストニアから来日したヘイディ・ソルバルDIW会長兼グローバルネットワーク責任者と共に、東京の駐日エストニア共和国大使館を訪問し、マイト・マルティンソン特命全権大使と面会して、これまでのWORLD CLEANUP DAYへの協力と国連国際デー登録へのエストニア政府の尽力に感謝の意を伝えました。また、環境省を表敬訪問し、環境省水・大気環境局 海洋環境課 海洋プラスチック汚染対策室の中山直樹室長とお会いしました。中山室長は日本をクリーンに保つための努力に、支持と関心を示してくださいました。



エストニア共和国大使館にて

挨拶と再会

リーダーズアカデミーは、7月18日夜、ウェルカムディナーから始まりました。参加者たちは大阪・梅田の居心地の良い居酒屋でおいしい焼き鳥などを食べながら、各国から来た友人たちと挨拶を交わし、再会を喜び合いました。



2025年日本国際博覧会協会企画局・永見靖上席審議役を迎えて

講演とワークショップ

2日目(7月19日)は同志社大学の協力のもと、同大学の大阪梅田サテライトキャンパスにて、カンファレンスが行われました。最初に、主催者である当法人代表理事・浅井孝夫、ヘイディ・ソルパLDIW会長兼グローバルネットワーク責任者、アグスティナ・イスカンダル・クロムパツハLDIWアジア地域ディレクターが、開会の挨拶を述べました。

午前の部では、2025年日本国際博覧会協会企画局の永見靖上席審議役により、また午後の部では、同志社大学の原田禎夫准教授、NPO法人海さくらの古澤純一郎理事長ら外部有識者による講演が行われ、日本におけるごみ問題への取り組みについて学ぶと共に、さまざまな議論が交わされました。

その後、参加者たちは、アジアにおけるWORLD CLEANUP DAYの課題をマッピングし、地域全体のごみ問題に対する持続可能な解決策をブレインストーミングするためのグループワークショップに取り組みました。そして、当日のカンファレンスは、アジア太平洋地域におけるゼロウェイスト(ごみゼロ)に関するLDIWオセアニア地域ディレクター、パル・マルテンソン氏のセッションで締められました。

3時間に亘るClimate Freskワークショップ

3日目(7月20日)は、シンガポールのカントリーリーダーであるチュン・ファイ・シュエン氏がリードするClimate Freskワークショップから始まりました。Climate Freskは、フランスの非営利団体によって開発された、気候変動を学ぶための強力なツールで、誰でも簡単に使うことができます。この共同ワークショップでは、参加者たちが3時間かけて気候変動の背後にある基礎科学やさまざまな原因を学び、どのようなアクションを起こすべきかを考え、議論しました。



実践的なワークショップで協力、共創しているリーダーたち

午後の部では、ベスト・プラクティスの共有に焦点が当てられ、インドネシアのリーダー、アンディ・バハリ氏による貴重なソーシャルメディア研修と、ラオスのリーダー、セルジュ・ドゥサント氏による国連プラスチック条約に関する重要な知見の共有が行われました。

夕方には、参加者全員で道頓堀通りに赴き、株式会社 FORCETECと道頓堀商店会のご協力のもと、道頓堀通りに設置されている太陽光発電機能・圧縮機能搭載のスマートごみ箱「SmaGO」を見学し、観光客が溢れる繁華街でのごみ問題への新しい取り組みを学びました。

いざ、実践!

4日目(7月21日)は、「言葉より実践」の精神のもと、NPO法人大阪海さくら主催の淀川河川敷クリーンアップに参加しました。猛暑にもかかわらず、参加者たちはトングを持ち、地元パートナーのブルーサントたちとともにごみ・廃棄物の清掃に精力的に取り組みました。



淀川河川敷クリーンアップを行なった後、NPO法人大阪海さくらの皆様と共に

上勝町ゼロ・ウェイストセンター訪問

公式日程が終了した翌日である5日目(7月22日)も日本に滞在できた参加者たちは、国際的にもよく知られている上勝町ゼロ・ウェイストセンター(徳島県上勝町)を訪問しました。この訪問では、小さな町のごみ処理における先駆的な取り組みを垣間見ることができ、他の地域でも導入できるごみゼロの原則の実践的な応用例の紹介を受けました。上勝町の住民の皆様は、最大限リサイクルをして、ごみの埋め立は最小限にすることを目指し、ごみを43種類に分別されています。参加者たち全員が大きな刺激を受けました。



上勝町ゼロ・ウェイストセンターでレクチャーを受けるリーダーたち

WORLD CLEANUP DAY 2024に向けて、アジアでのネットワークを強化しよう!

アジア各地から大阪に集まったLDIWのリーダーたちからは、ものすごい活気と熱量が感じられました。そして、多様な背景を持つ各国のリーダーたちが力を合わせて、サステナビリティのための新しいモデルを作成し、ベスト・プラクティスを交し合い、今後さらに緊密な協力体制を構築するためのスタートとなりました。



日本・沖縄



キルギスタン



日本/東京



日本/中部



ウズベキスタン



ギニア



日本/千葉



コソボ

Thank you!

supported by



worldcleanupday.jp

NPO法人 WORLD CLEANUP DAY JAPAN

info@worldcleanupday.jp

